

嵐山嵯峨野エリアにおける観光回遊特性分析：観光スポットの歴史文化的イメージとの関連に着目して*

Some Characteristics of Sightseeing Excursions by Visitors to Arashiyama-Sagano Area:
Focusing on Historical and Cultural Image of Spots*

土井 勉**, 西井和夫***, 川崎雅史****

Tsutomu Doi**, Kazuo Nishii***, Masashi Kawasaki****

1. はじめに

今後わが国は、人口減少社会を迎え、都市における定住人口も減少すると予想される。こうした状況において都市の活力を維持し増大させるためには、観光目的などの来訪者の増加を促進する集客政策あるいはビジターズ・インダストリーが有効であると言われている¹⁾。

都市の集客性という課題に取り組む際に、地域経済への波及効果の側面からいえば、当該都市への来訪者数とともに、訪問地での滞在時間を増加させることが必要で、そのための適切な施策を用意しておくことが重要と考えられる。いわば、集客性とは、

(集客性) = (来訪人数) × (滞在時間)

で表現される²⁾。これより、来訪人数の増加のための観光地(エリア全体)や施設(観光スポット)の魅力向上、滞在時間の増加のためには、エリア内の回遊性向上策、(特に徒歩による)魅力ある回遊路整備策の提案に向けた諸検討が必要といえる。

本研究では、わが国における有数の回遊型観光地区である、京都洛西エリアの嵐山嵯峨野(地区)を取り上げ、観光行動の実態データと観光スポットの施設特性にもとづき、観光スポットと回遊性との関係を分析すること、および回遊路形成とエリアイメージ、とくに歴史文化的イメージとの関係について考察することを目的とする。

2. 洛西エリア観光来訪者調査と基礎集計

(1) 調査の概要

*キーワード：観光交通、回遊行動、イメージ分析

** 正会員 工博 財団法人千里国際情報事業財団

(〒565-0082 豊中市新千里東町 1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル 12F TEL: 06-6873-2008 FAX: 06-6873-2009)

*** 正会員 工博 山梨大学工学部土木環境工学科

(〒400-8511 甲府市武田 4-3-11 TEL/FAX: 055-220-8533)

**** 正会員 工博 京都大学大学院工学研究科環境地球工学専攻
(〒606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL: 075-753-5122 FAX: 075-753-5123)

この調査は、筆者らによる一連の観光地イメージ調査研究(1997,1998)^{3,4)}に引き続き、エリアイメージ構造の特徴把握と実際の観光客の周遊行動特性(エリア内回遊特性を含む)との関連性を明らかにするとともに、魅力ある観光地周遊ルート(エリア内では回遊路)を提案することを目的としている。

本調査は、1999年5月の連休期間に京都の洛西と洛東の2エリアにおいて観光客を対象とした手渡し郵送回収方式のアンケート調査である。本研究に直接関係するのは洛西エリアであるので、図-1にはこのエリアでの調査の概要を示している。

表-1は、約300の有効サンプル(回収率31%)の洛西来訪者のプロフィールをまとめたものである。ここで、1996年11月実施の京都休日交通調査時のサンプルプロフィール(西井(1998)⁵⁾)と比較すれば、年齢構成、旅行形態(日程)、京都までのアクセス手段等に関してはほぼ同様な構成割合になっており、比較的小規模なサンプル抽出であったが、全体の傾向を読み取るには有効なものと判断した。

実査日：1999年5月2日(日)

場 所：洛西エリア内主要観光スポット
金閣寺、渡月橋、天竜寺、大覚寺、
太秦、松尾大社の周辺

方 法：各スポット周辺への来訪者
(観光客)への調査票配布・後日
郵送回収

配布枚数：1000枚(各スポット平均180枚)

有効サンプル：313人(回収率31%)

調査項目：個人属性、旅行形態、来訪経路、
エリア内立ち寄りの場所・時刻、
エリア内回遊ルートとその評価、
観光スポットのSD評価

図-1 洛西エリア観光来訪者調査の概要

また表－1より、京都までの交通手段では、全体の23%が自家用車利用であるが、洛西エリア内での交通手段は46%が徒歩であり、公共交通（路線バス＋電車）が31%である。一方、自家用車は9%

表－1 洛西エリア来訪者のプロフィール

性別：男性45%、女性55%
年齢：20代－50代まで、各約20%
居住地：京都府10%、京都以外の近畿30%、近畿以外60%
来訪経験：京都への来訪
初めて；30%、年間3回以上；21%
旅行形態：日帰り48%、1泊2日12%、2泊3日24%、3泊以上15%
利用交通手段：京都まで
自家用車；23%、新幹線；28%、在来線・私鉄；38%、バス；8%
エリア内利用交通手段：
徒歩；46%、二輪；6%、車；9%、タクシー；7%、路線バス；14%、電車（JR、阪急、京福）；17%

表－2 嵐山嵯峨野地区スポットへの来訪分布

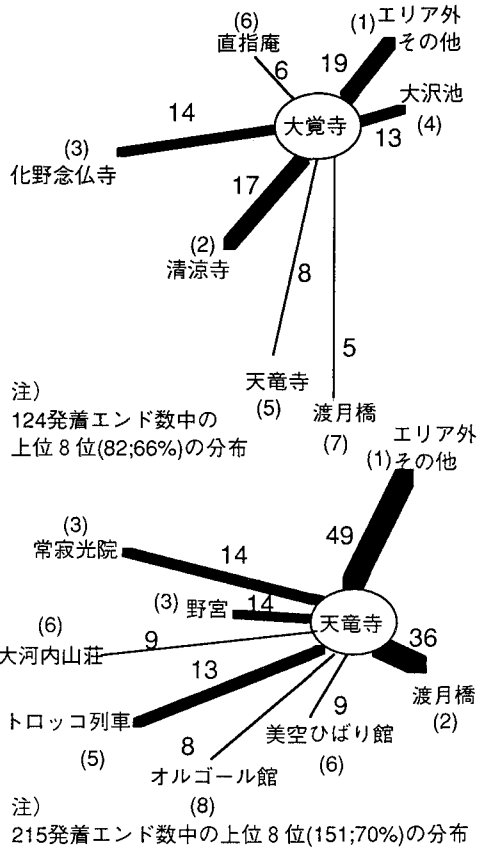
	観光スポット	来訪者数	割合(%)
1	渡月橋	124	17.08
2	天竜寺	111	15.29
3	大覚寺	72	9.92
4	化野念仏寺	42	5.79
5	常寂光院	41	5.65
6	落柿舎	39	5.37
7	野宮	34	4.68
8	清涼寺	34	4.68
9	二尊院	32	4.41
10	中之島公園	31	4.27
11	トロッコ列車	26	3.58
12	オルゴール館	25	3.44
13	美空ひばり館	22	3.03
14	大河内山荘	22	3.03
15	祇王寺	18	2.48
16	亀山公園	15	2.07
17	法輪寺	14	1.93
18	鳥居本保存館	9	1.24
19	直指庵	9	1.24
20	滝口寺	6	0.83
	合 計	726	100.0

で、入洛時の場合に比べて減少している。これより、洛西エリア内では、徒歩を中心に、それを補完する公共交通が回遊行動における主たる利用交通手段として用いられ、観光活動形態も散策型パターンが多いことが示唆される。

(2)嵐山嵯峨野地区での回遊特性

次に、洛西エリア来訪者データを用いて、本論文で取り上げている嵐山嵯峨野地区における回遊行動パターンの基礎集計結果を紹介したい。

表－2は、この地区にある代表的な観光スポット20箇所についての延べ来訪者数の頻度分布を示す。これより、約300人の被験者がこれら20スポットを延べ726回（2.32スポット／人）来訪し、最も多く来訪しているのが渡月橋、天竜寺、大覚寺などであること、そして比較的来訪分布は分散していることが特徴的であるといえる。



図－2 主な観光スポットの発着エンド分布

次に、後述の歴史文化イメージの議論との関係を考慮し、この地区の回遊の拠点的役割を持ち得る上位の観光スポットに着目し、トリップチェーン中の前後の発着エンド分布を求め、回遊路形成上の特徴の把握を試みた。図-2は、天竜寺と大覚寺のそれぞれについて、そこを来訪しているトリップチェーンにおける前後の来訪地の頻度を表わしている。これより、天竜寺は、天竜寺発着エンド総数(215 tripends)のうち上位8位で約70%を占め、最も多いのは、エリア外から(へ)、あるいはエリア内の20箇所以外のスポットから(へ)のパターンである。これに次いで、渡月橋、野宮、常寂光院、トロッキ列車の順である。天竜寺の場合は、嵐山嵯峨野の中心部に位置するためか、この地区の周辺部への回遊が多いことが特徴といえる。

一方、大覚寺は、上位8位までで約66%を占め、やはりエリア外・その他が最も多く、次いで清涼寺、化野念仏寺、大沢池となっており、これらは比較的近距離のスポットである。天竜寺と異なり、大覚寺は、この地区の北側の外縁部であるため、回遊の空間的範囲は比較的小さいといえる。

3. 地区の歴史文化的イメージ形成の特徴

(1)嵐山嵯峨野の歴史文化的イメージ

前述のように嵐山嵯峨野は、主に歩いて各観光スポットを巡る回遊型の観光地である。したがって、同じ京都にある清水寺や金閣寺のように、単独の施設の集客能力によって来訪パターンが規定されるのではなく、多くの観光スポットによって地区イメージが形成されている。

しかも、これらの観光スポットは、多くの場合に嵐山嵯峨野を舞台にした多様な物語と密接に関係している。表-3は、嵐山嵯峨野の観光スポットと物語との対応を示したものである。これより、「源氏物語」をはじめ、これらは、平安時代の男女の悲恋あるいは、その哀愁をテーマにしたものが多く、各施設も、こうした物語及びその背景にある歴史文化的イメージを取り入れてつくられているものが多い。すなわち、

こうした物語や歴史文化イメージと個々の施設の集積が、嵐山嵯峨野の地区全体の観光地イメージを形成していると考えられる。

さらに嵐山嵯峨野地区は、地区全体のイメージを基本コンセプトとして、それを具体的に提示する個々の観光スポットから形成されたテーマパークのようになっているものとしてとらえることができる。

(2)歴史文化的イメージと観光スポット形成

前述の表-2で示したように、この地区は少数の観光スポットが群を抜いて来訪者を集めているというよりも、多くのスポットに分散的に人々が訪れ回遊を行い、その集積によって京都市内でも有数の観光地になっている。

表-3 嵐山・嵯峨野と物語

場所	物語	内容
嵯峨野	枕草子	野は、嵯峨野さらなり
野宮・竹林	源氏物語/謡曲「野宮」	「賢木」の巻
嵐山・桂川・大覚寺	源氏物語	「松風」の巻
祇王寺	平家物語	祇王の事
滝口寺	平家物語/源平盛衰記	横笛の事
小督塚・大堰川	平家物語/謡曲「小督」	小督の事
願離庵・二尊院・常寂光寺	百人一首/謡曲「定家」	小倉山山荘(明月亭)
小倉山	百人一首/謡曲「定家」	
清涼寺	増鏡/謡曲「融」「百万」	
天竜寺	太平記	後醍醐天皇・足利尊氏
宝篋院	太平記	楠正行・足利義詮
大覚寺	太平記	南朝
化野念仏寺	徒然草	あだし野の露消ゆる
落柿舎	芭蕉・嵯峨日記	向井去来庵

表-4 観光施設の歴史的推移

観光施設	成立時期	再興/再生時期	分類	記号
1 渡月橋	834~48(承和)	1934(昭和9)	存続・再生	□
2 天竜寺	1345(貞和1)		継続	■
3 大覚寺	876(貞観18)		継続	■
4 化野念仏寺	平安時代	明治36・7年頃	存続・再生	□
5 常寂光寺	1624~44(寛永)		継続	■
6 落柿舎	1600年代後半	1895(明治28)	荒廃・再興	●
7 野宮	不明	1873(明治6)	存続・再生	□
8 清涼寺	987(寛和3)		継続	■
9 二尊院	836(承和3)		継続	■
10 中ノ島公園	1910(明治43)		新設	○
11 トロッキ列車	1991(平成3)		新設	○
12 オルゴール館	1993(平成5)		新設	○
13 美空ひばり館	1994(平成6)		新設	○
14 大河内山荘	1964(昭和39)		新設	○
15 祇王寺	江戸時代	1895(明治28)	荒廃・再興	●
16 亀山公園	1910(明治43)		新設	○
17 法輪寺	713(和銅6)		継続	■
18 鳥居本保存館	1993(平成5)		新設	○
19 直指庵	1646(正保3)	1880(明治13)	荒廃・再興	●
20 滝口寺	不明	昭和初期	荒廃・再興	●

こうした観光スポットで創建当時の姿を今に残す寺院は別にして、嵐山嵯峨野に関連するイメージを今に保持している多くの観光スポットは、一体何時、誰がどのような意図で整備をしたのであろうか。

それを考えるためにこの地区内の観光スポットの中から、最も近い法輪寺からでも約 1.7km 離れている松尾神社及び池や山などの自然物を除いた 20 の観光スポットを対象として、その形成過程を整理したものが表一 4^{注)} である。

ここでは、施設の成立時期と、明治時代以降でそれが再興（場所が旧地から移動したり、一旦は荒廃したものを作り直した場合）、再生（存続していたものに更に手を入れた場合）された時期を記している。さらに、ここでいう再興・再生の他に、存続（創建当時からの姿を残している）、新設（明治時代以降に新たに整備された）の 4 つの視点で各観光スポットを分類整理している。

これらの観光スポットのうちで存続に分類されるものは 6 箇所であり、全体の 30%、残りの 70% は明治時代以降に手を入れている。7 箇所と最も多いのが新設、再興 4、再生も 3 箇所となっている。

これより、平安時代の悲恋の舞台という地域イメージがあるものの、観光スポット自身が平安時代から連綿と変わらずに維持されているのではなく、多くは明治時代以降に形成されたものと考えられる。

(3) 渡月橋の再生

例えば、表一 2 で最も多くの訪問者があった渡月橋では、1909（明治 42）年に架橋された有効幅員 4m の木橋が洪水のたびに浸水破損するとともに、腐朽激しく、観光シーズンには通行制限も行われて、早晚架替する必要があった。京都市では幅員を 11m に拡張し、鉄筋コンクリート構造の新橋建設を行う計画がなされたが、新橋では「専ら環境の調和を旨とし技術上規定街路橋の強度を保ちたる上に外形上旧態を保存することに苦心し」て「高欄は風致を考慮して旧来通り形態を保存し尾州産無節二方柱の桧材を用い…橋体反りは中央部において 1m 高くして放物線型で」⁶⁾、という設計がなされた。その結果、1939（昭和 9）年に名称の由来と言われる「くまなき月の渡るに似ている」姿が連想でき、嵐山の景観を引立てる現在の渡月橋が完成したのである。

渡月橋と類似した整備は、公共や民間あるいは地元の人々を中心に他の再興・再生された観光スポットでも見られる。こうした活動が個々の観光スポットの魅力づけを強化し、その集積が嵐山嵯峨野の地域イメージの強化・育成を促したものと考えられる。

4. おわりに

本研究では、京都洛西エリアの嵐山嵯峨野地区を取り上げ、回遊型観光地区内の観光行動の実態データと観光スポットの施設特性にもとづき、観光スポットと回遊性との関係、および回遊路形成とエリアイメージ（とくに歴史文化的イメージ）との関係について基礎的な考察してきた。

今後の課題としては、観光スポット間の回遊パターンの詳細分析を通じて、集客性の高い回遊路（来訪者数が多くあるいは滞留時間の長い回遊路）を抽出するとともに、観光スポット間の空間的距離やイメージの連続性について考察し、魅力ある回遊路形成のための方法論の提案を行うことである。

注) 各観光スポットの来歴を調べるのに参考としたものは京都市：「京都修学旅行ハンドブック」、1998、嵯峨教育振興会：「嵯峨誌平成版」、1997、京都府観光連盟：「京都観光ガイド」、1995、竹村俊則：「昭和京都名所図絵 4 洛西」、1983、嵐山保勝会：「観光の嵐山」、1936、京都市：「新選京都名勝誌」、1915、秋里離島：「都名所図絵」、1780、及び各観光スポット発行の案内パンフレットである。

参考文献

- 1) 例えば、「大阪市観光基本政策への提言」（1996 年、大阪市）、「名古屋市ビジターズ戦略ビジョン」（1998 年、名古屋市）など。
- 2) 土井：都市間競争時代の賑わいあるまちづくり、FUSION Vol.5、宝塚まちづくり研究所、pp.26-30、1999。
- 3) 西井、棚橋、川崎、酒井：京都観光におけるエリアイメージ構造把握のための空間布置分析、土木計画学研究・論文集、Vol.15、pp.403-412、1998。
- 4) 西井、土井、川崎、棚橋、服部：京都の観光地イメージにおける集塊性に関する基礎分析、土木計画学研究・講演集、Vol.21-(2)、pp.221-224、1998。
- 5) 西井：京都市観光交通調査と分析、土木計画学シンポジウム、No.34、pp.15-24、1998。
- 6) 京都市土木局土木課：嵐山渡月橋架換工事概要、セメント界彙報(No.317)、1934 年 8 月。